

第一課 紛争してはならない I コリ1:18-31)

十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなしくする。」知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではありませんか。事実、この世が自分の知恵によつて神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。(18-21)

「紛争を防ぐ十字架のことば」



紛争をするということは、両方に分かれて争うことです。

互いに争うことは、何かについて正しい、正しくないという違いがあることであり、

正しさの違いがあることは、何かは「善」であり、何かは「悪」であると判断することです。

これが、善悪の知識の木の実を取って食べた人間の「罪の性質」です。

神様はすべてを見て「良い」と創造されました。それは造られたすべてが「正しい」ということです。しかし、自らが神様となり、善悪の判断の主体者として生きようとしたアダムとエバが善惡の木の実を食べて、自分たちが裸であることを恥ずかしく思い、神様の御顔を避けて隠れます。ご覧になって非常に良いとされた神様に正面から敵対したのです。



「私は裸なのが恥ずかしい」ということです。「このように造られたのが嫌だ」ということです。その背後に誰がいたのでしょうか？サタン、悪魔がいます。

ヘブライ語でサタン (satan) またはサタナス (satanas) と書き、ギリシャ語でディアボロス (diabolos) と書くこの名前は、「敵対者」、「告発者」、「間を分ける者」などの意味を持っています。つまり、神様と人の間を分ける役をしたのです。それだけでなく、今も目に見えないように靈的に存在しているサタンは、国と国、民族と民族、人と人の間を離して紛争をもたらしています。

かんけい ふんそう ふせ ふんそう こんほんげんいん けんせい くず かみさま ちから
このように、すべての関係の紛争を防ぎ、その紛争の根本原因であるサタンの権勢を崩す神様の力が

じゅうじか きょう ほんぶん きろく
十字架であることを今日の本文で記録しています。



かんれん 甚いく みてみましょう。
関連する聖句をいくつか見てみましょう。

Ⅱコリ5:18-20

18 これらのことはすべて、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。

19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

20 こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たちを通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。

エペソ2:13-16

13 しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。

14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、

15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、
平和を実現するためであり、

16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

コロサイ1:20-22

20 その十字架の血によって平和をつくり、御子によって万物を、ご自分と和解させてくださったからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させてくださったのです。

21 あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となって、悪い行ないの中にあったのですが、

22 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださいました。